

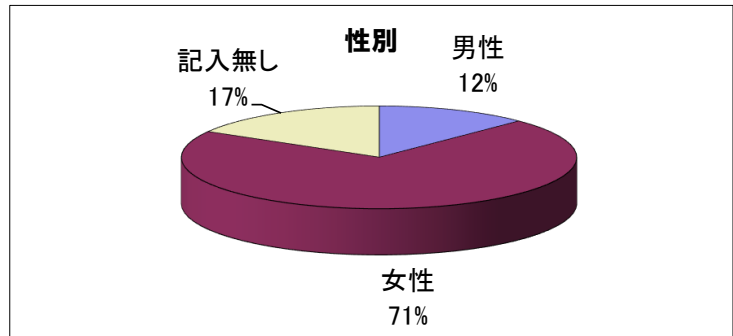
# 令和元年度認知症パートナー講座(第1回)アンケート結果

参考①

実施日 令和元年8月6日(火)  
 会場 仙台市シルバーセンター 6階 第2研修室  
 受講者数 79名(市民36名、包括等職員31名、区役所職員12名)  
 アンケート提出者数 72名

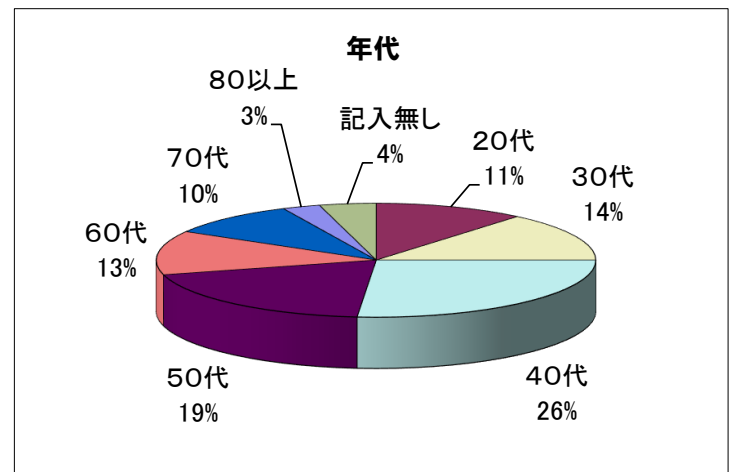
## ○性別

	回答数
男性	9
女性	51
記入無し	12
計	72



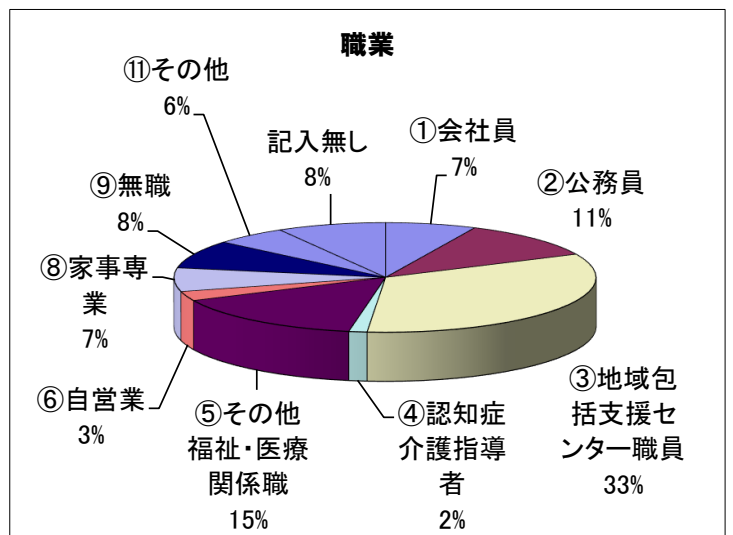
## ○年代

	回答数
10代	0
20代	8
30代	10
40代	19
50代	14
60代	9
70代	7
80以上	2
記入無し	3
計	72



## ○職業

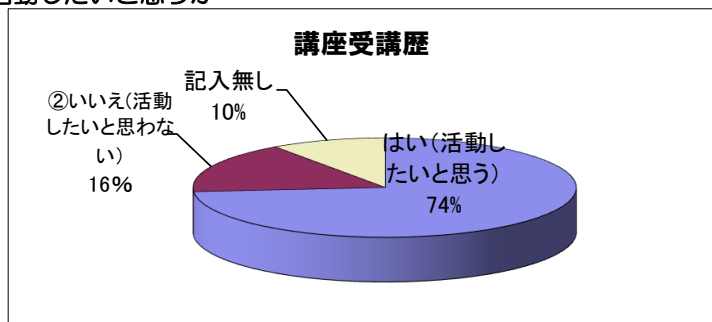
	回答数
①会社員	5
②公務員	8
③地域包括支援センター職員	24
④認知症介護指導者	1
⑤その他福祉・医療関係職	11
⑥自営業	2
⑦パート、アルバイト	0
⑧家事専業	5
⑨無職	6
⑩学生	0
⑪その他	4
記入無し	6
計	72



⑪その他／記入無し、会社役員、当事者、臨時職員

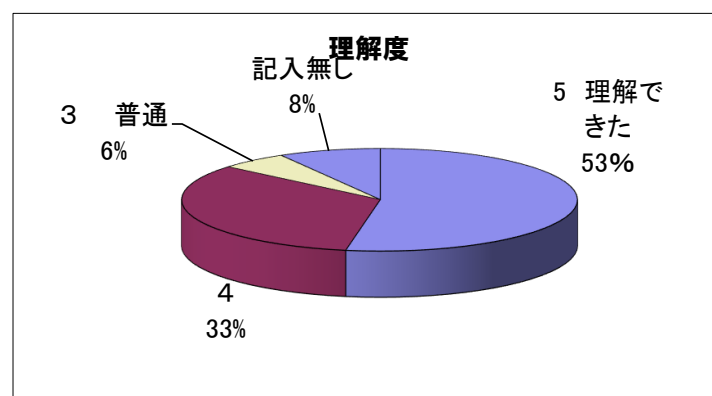
○認知症サポーター・パートナーとして地域で活動したいと思うか

	回答数
①はい(活動したいと思う)	53
②いいえ(活動したいと思わない)	12
記入無し	7
計	72



○認知症パートナー講座の理解度

	回答数
5 理解できた	38
4	24
3 普通	4
2	0
1 理解できなかった	0
記入無し	6
計	72



○受講者アンケート抜粋

- ・とても中身の濃い内容だった。当事者のお二人の明るい表情によって認知症のイメージが変わった。(60代)
- ・当事者ご本人の声、意見を聞いてよかった。認知症は特別ではないことを理解した。病気としての認知症を理解し、同時に自分事として捉えていきたい。関係を大事にしたい。(60代女性)
- ・当事者と健常者の差異の小ささに驚いた。認知症に関する認識が一変した。(会社役員/70代男性)
- ・当事者の方の話を聞くことができ大変貴重な時間となった。「ほどほどに見守る」「自然に接してほしい」「変わらず関わってほしい」という言葉がご本人から聞けたので、その思いを忘れずに自分もパートナーとして接していきたいと思う。また、自分自身も当事者となった際は、お二人のように前向きに過ごしていきたいと感じた。(会社員/40代女性)
- ・初めてのグループワークだったので不安だったが、色々な意見が新鮮で大変楽しく学べた。笑顔で接する大切さ、変わらない日常を過ごす楽しさが胸に響いた。(家事専業/70代)
- ・「認知症」を病気と捉えず、母に対して優しい娘として接したい。(臨時職員/60代女性)
- ・講座を通じて元々持っていた認知症に対する考えや、当事者の方に対しての「やってあげない」という気持ちや、「どう寄り添うか」というもの変わった。とても考えさせられる機会だった。(地域包括支援センター職員/男性)
- ・当事者の方にお会いできてよかった。地域包括には困った問題が発生してからの相談が毎日寄せられる状況であり、本日のお二人の様な方を見ると早期診断の重要性とその後の対応によってこんなにも穏やかでいられるのだと改めて知ることができた。(地域包括支援センター職員/40代女性)
- ・当事者の方のお話がとても心に響いた。深く踏み込みすぎないことが大切で、人と人の関係で関わっていくようにしたいと思った。(地域包括支援センター職員/50代)
- ・認知症に対してもう少し肩の力を抜き、普通にほどほどに見守りながら「認知症の人」ではなく「その人」として見られれば良いと思った。(その他福祉・医療関係職/30代)